



金融危機後に存在感を増すドイツの GLS Bank

開発経済調査部 主任研究員 杉本章

グローバル金融危機の一因として、欧米大手銀行の倫理欠如が槍玉に挙げられている。彼らは短期的な収益極大化を重視するあまり、顧客や市場相手にルール違反ぎりぎりの取引を遠慮なく実行し、そこで得た収益の多くを幹部の高額報酬として持ち去ったとされている。今や非常に多くの人々が、「米住宅バブルの膨張、その破裂によって引き起こされたグローバルリセッション、そしてその後遺症として残ったソブリンリスク等は全て欧米大手銀行のせいだ」と考えるようになった。そして銀行に対する風当たりは日々厳しさを増している。その一方で、顧客からの支持を着実に増やし、人々の尊敬を集め、業容を急拡大しているオルタナティブ・バンクがドイツに存在する。

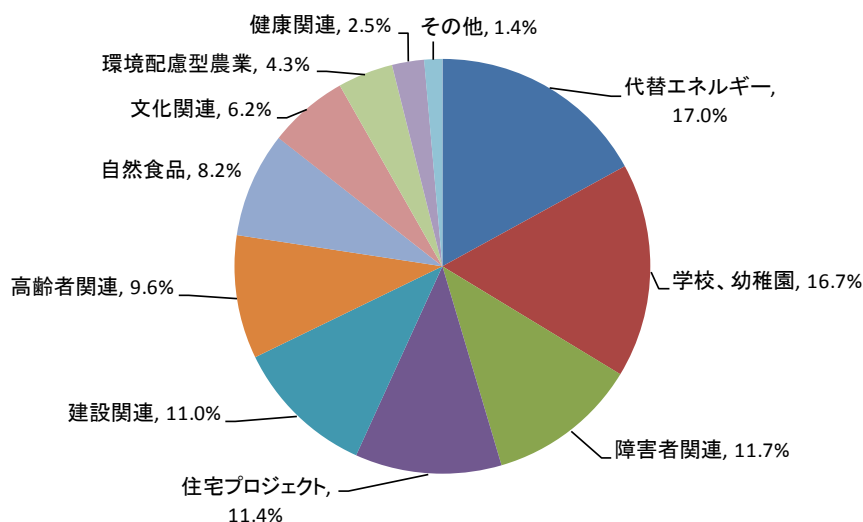
オルタナティブ・バンクとは、金融活動を通じて社会・環境に貢献し、社会の持続的発展を達成していこうとする銀行のことである。ドイツの GLS Bank は 1974 年に世界で初めて、持続的な社会の発展に貢献することを理念にもつ銀行として設立された。社会・環境への投融資に特化した金融機関として、ヨーロッパを代表するパイオニア的な存在である。ライン川の東方に位置する小さな工業都市、ボーフムに本店を置き、ベルリン、フランクフルト、ミュンヘン、ハンブルク、シュトゥットガルト、フライブルクといった国内主要 6 都市に支店網を有し、ドイツ全域に展開している。同行では、投融資の意義・目的の明確化、透明性・安全性・収益性の確保を基本方針としている。

GLS Bank の理念は「お金を意義あるものにすること」である。同行に預金口座を開設する顧客は、預けた資金がどの分野に配分されるかを予め選択することにより、自分のお金の意義・目的を明確化することができる。目下 10 分野で 8,911 プロジェクトへの融資が実行されているが、預金者は自分にとって意義があると考えて選択した分野だけを支援していることになる。こういった資金使途の明確化は、決済性預金、定期性預金だけでなく、各種証券、ファンド、年金、保険商品においても可能となっている。遺産寄贈、基金設立などを通じて自分のお金を社会の為に意義ある形で活かしたい、と考えている顧客に対しては、その具体的方法についてアドバイス・支援を行っている。また、預金者は預金収益の全額または一部を寄付することができる。2008 年には約 7,500 人、預金者の約 12% が寄付に応じていた。

同行の資産サイドに目を向けると（図表 1）、貸付残高の中に占めるシェアは、特定の分野に大きく偏ることなくリスク分散が効いている。代替エネルギーと教育（学校、幼稚園）のシェアが約 17% と最も高く、障害者、高齢者関連がそれぞれ約 1 割を占めている。住宅プロジェクトと建設関連もそれぞれ 1 割強を占めているが、省エネ住宅、多世代共同住宅等へのアドバイスやノウハウ提供による成長が期待されている。また、代

替エネルギー、自然食品、環境配慮型農業は「持続可能性」関連分野として、これまで順調に拡大してきたが、今後についても10%程度の高成長が見込まれている。GLS Bankの当面の重点戦略分野は、代替エネルギー、教育、自然食品の3分野である。なお、アルコール、原子力、軍事等の分野は同行の融資対象外となっている。

(図表1) GLS Bankの分野別貸付シェア内訳 2009年末基準



(出典：GLS Bank 事業報告書 2009)

GLS Bankは透明性の確保を非常に重視しており、貸出が行われている各分野のプロジェクトをディスクロージャー誌「Bankspiegel」で定期的に(年4回程度)公開している。預金者は自分の資金が自分の意思通り正しく使われているかどうかを確認できるようになっている。また預金者に対しては銀行への出資が積極的に働きかけられており、出資者になると年次総会で同行の業務方針について詳細な説明を受け、銀行側との意見交換に参加することができる。

GLS Bankにおけるデフォルト率は、過去5年平均0.34%と非常に低い水準に抑えられており、融資の安全性はしっかり確保されている。社会・環境問題解決関連の投融資は収益性が低く、その分リスクが高くなりがちであるが、同行は高度なプロジェクト審査能力と借入人に対する有効なアドバイスによってその問題をカバーしている。同行は全ての融資案件に独自の内部格付を付与し、きめ細かいモニタリングを実施している。また、同行から借り入れられること自体がステータス化しており、融資希望者が非常に多いため、同行は質の高い上位の案件だけを選んで取り上げることができるという事情もプラスに働いているようである。一方、預金者に対しては市場金利に近い水準の預金金利を還元している。オルタナティブ・バンクといえども、預金者の収益性をそれほど犠牲にしているわけではない。

2009年はGLS Bankにとって重要な年となった。預金者の単年度増加件数が初めて10,000を超え、預金残高も10億ユーロの大台を超えたのである(図表2)。また、貸付残高も金融危機後のドイツ経済低迷にもかかわらず大幅な伸びを示している。「行員が対応し切れないほどの人がGLS Bankの店頭に並んでいる」とのマスコミ報道が見られ

たくらい、同行の人気の高さはドイツでも注目を集めている。

(図表2) GLS Bank の主要計数推移

(単位：千ユーロ)

| | 2009 年末 | 2008 年末 | 2007 年末 | 2009/2008 対比 |
|----------|-----------|-----------|---------|--------------|
| 預金者数(顧客) | 73,000 | 62,000 | 55,000 | +17.7% |
| 総資産 | 1,381,319 | 1,037,139 | 813,313 | +33.2% |
| 預金残高 | 1,152,059 | 839,860 | 660,551 | +37.2% |
| 貸付金残高 | 717,203 | 613,336 | 478,466 | +16.9% |
| 純利益 | 202 | 152 | 120 | +32.9% |

(出典：GLS Bank 事業報告書 2009)

GLS Bank は今年 1 月、ドイツ政府よりドイツ国内におけるマイクロファイナンス業務の推進を委託された。ドイツ政府により設定された 1 億ユーロの基金を原資に、同行が窓口となって 1 件あたり最大 2 万ユーロ、融資期間 3 年以内、金利 7.5% の小口融資をドイツの中小企業向けに提供するのである。同行のマイクロファイナンスにおける長年の経験とノウハウがドイツ政府から頼りにされているのである。

従来からドイツ人はお金や物を大切に、環境問題にも熱心に取り組む国民として有名である。金融危機をきっかけに、自分の大切なお金を社会の為に意義ある形で使って欲しいというニーズが目に見えて増えているという。GLS Bank の業容拡大はこういったドイツの国民性に支えられている部分が大いと思われる。

一般的には社会・環境問題解決の為にファイナンスはビジネスとして成立しづらく、何らかの公的支援・関与が期待されがちである。しかし、ドイツ政府から特段の支援を受けていない民間銀行である GLS Bank の成功は、高い審査能力に基づくリスク管理と徹底した情報開示・透明性の確保により、そのビジネス化が十分可能であることを示している。GLS Bank の規模は、本邦メガバンクと比較すると総資産ベースで 0.2% にも満たないが、「志を持ったお金の流れを作る」ことに成功しているという点で画期的である。GLS Bank のビジネスモデルは、金融危機を経て人々が求め始めている「尊敬される銀行」のひとつの有力なパターンである。本邦商業銀行業務の中で、何とか応用できないものだろうか。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2010 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-Chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>